

Museum UnLearning Program for All

みんなで"まなびほぐす"美術館―社会を包む教育普及事業―

2021年度マルパ研修会(第2回)

難民というアイデンティティを 固定化しないために

博物館・美術館等の学芸員や職員を対象に、言葉や文化の壁によって学校生活や地域コミュニティでの生きづらさを抱えた、 定住外国人の現状への理解を深めるためのセミナーです。地域住民やNGO、アーティストとともに、定住外国人向けの教育普 及プログラムを企画・実施するための素地を作っていきます。

日 時:2022年 1月9日(日) 13:30~15:20 (視聴サイト入室可能 13:00~)

形 式: オンライン(ZOOM) ※事前申込制

講演者: 高山 明氏

(演出家·東京藝術大学大学院映像研究科教授)

講演

タイトル: 難民というアイデンティティを

固定化しないために

参加費: 無料

定員: 30名



(撮影: 奥祐司)

申込方法 タイトルを「マルパ研修会」として、本文に①氏名、②電話

番号、③メールアドレス、④お住まいの自治体(市区町村

のみ)、⑤ご所属(任意)をご記入いただき、メールアドレ

ス(mulpa@kifjp.org)宛てにお送り下さい。

申込締切 2022年1月7日(金)

お問い合わせ 公益財団法人かながわ国際交流財団 担当 野呂田

TEL 045-620-5045 E-mail mulpa@kifjp.org



登壇者の紹介

講演者 略歴 高山 明(たかやま・あきら)氏

1969 年生まれ。演出家・アーティスト。東京藝術大学大学院映像研究科教授。

演劇ユニット PortB(ポルト・ビー)主宰。既存の演劇の枠組を超え、現実の都市や社会に介入するプロジェクトを世界各地で展開している。近年では、美術、観光、文学、建築、教育といった異分野とのコラボレーションに活動の領域を拡げ、演劇的発想を観光や都市プロジェクト、教育事業やメディア開発などに応用する取り組みを行っている。著書に『テアトロン―社会と演劇をつなぐもの』(河出書房新社、2021年)がある。

開会あいさつ 略歴 水沢 勉 (みずさわ・つとむ)氏

マルパ実行委員会会長/神奈川県立近代美術館長

1952年横浜生まれ。慶應義塾大学で修士号を得る。ウィーン世紀末、とくにエゴン・シーレを研究。1978年神奈川県立近代美術館の学芸員。2011年以後、同館館長を務める。モダニズムの多様性を世紀転換期以後の日本・ドイツ語圏の近現代芸術に探る展覧会を企画。著作に『この終わりのときにも世紀末芸術と現代』(思潮社、1989年)等。



司会 略歴 岩井 成昭 (いわい・しげあき)氏

マルパ実行委員会実行委員/イミグレーション・ミュージアム・東京主宰

国内外の特定地域における環境やコミュニティーの調査をもとに多様なメディアで作品を発表する。1990年代という早い時期から多文化状況をテーマにおき、2011年からはプロジェクトベースの「イミグレーション・ミュージアム・東京」を主宰。その一方で、拠点を秋田におき、秋田公立美術大学の大学院「複合芸術研究科」の新設に参与したほか、同地で「辺境芸術」を標榜するなど、さまざまな活動を並行して進めている。

美術家·秋田公立美術大学教授。



当日のスケジュール

13:30~15:20 司会 岩井 成昭氏

1.開会あいさつ 水沢 勉氏 10分

2.講演 高山 明氏

「難民というアイデンティティを固定化しないために」60分

- 3.参加者との意見交換・質疑応答 30分
- 4.KIF 事業の紹介 KIF 10 分